



福島県内の児童養護施設の現況 内部・外部被曝低減・予防のための活動とご協力をお願い

♥NPO 法人として認可されました

福島県内には児童養護施設が 8 施設あります。これらの施設には親の養育上の問題など様々な事情から親元に帰ることのできない0歳から18歳までの子どもが生活しています。本会は東京電力第1原子力発電所の事故後による放射能の問題が施設の子どもたちに及ばないよう、外部・内部被曝のモニタリングと被曝量低減のための活動を実施しています。

小さな子どもたちにとっては、長期的な健康管理が必要となります。そこで、事故時の現住所の証明(住民票は措置前の住所)を含め、健康状態を示す手帳を作成して、被曝による影響を継続的に記録していくシステムを構築する準備を進めています。そのほか、職員への低線量被曝に関する勉強会の開催、除染のための寄付金の呼びかけ、米国からの施設に寄贈されたガイガーカウンターの英文マニュアルの和訳、給食などの食品に含まれる放射線量の測定器(ヨウ化ナトリウムγスペクトラム測定器、通称ベクレル計)の設置促進に関わる活動に加え、児童養護施設の子どもたちの健康維持・促進に関わる看護師の役割・機能に関する調査を行っています。

活動を継続的に維持・発展させるため NPO 法人設立の申請を福島県に行い、9月25日に認可されました。

♥児童養護施設の子どもに対する健康調査

福島県では県民健康管理調査として、甲状腺エコーや血液検査、ホールボディカウンター(内部被曝線量を体外から測定する検査)が実施されています。昨年3月11日に福島県内に居住していた18歳未満、36万人を検査するものです。福島市内では既に終了し、児童養護施設の子どもたちの結果も書面で回答が戻ってきていますが、福島市を含めた県北地域について、20 mm以下の嚢胞・あるいは5 mm以下の結節のある A-2 判定が43.1%(42,060人中18,199人)となり、不安が広がっています。

児童養護施設に入所している子どもは、小さい子どもほど入退所が多く、事故時・後に退所した子どもが数人いること、さらに事故後に入所してきた子どももいることがわかってきました。個人情報保護の点からは施設の職員でない本会が、入退院の実態を事前に把握することは不可能でした。しかし、子どもが事故時にどこに住んでいたのかを考慮して健康管理をしてゆく必要を改めて感じました。

養育先が決まり、退所する子どもには、健康管理(生涯続く甲状腺エコーをはじめとする県民健康管理調査)の

受診について養育者に伝えるために工夫が必要と考えています。福島県内でも、現在は内部・外部被曝に関する知識量や意識は様々だからです。今後は保護者へ必要性を伝えてゆく方法を確立していく必要があります。

なお、この甲状腺エコー検査は、県外避難者の検査方法は、避難先の県ごとに違い混乱を呼んでいます。また、異常がないとされる嚢胞、結節がある子どもはその大きさを「20 mm以下」「5 mm以下」とのみ伝えられ、正確な数値は知られていません。次回の検査は平成25年の2年後となっています。その後18歳になるまでは2年ごと、さらにその後は5年ごとに生涯継続される予定です。しかしこのような間隔で再検査を行う事については様々な見解があります。チェルノブイリでは少なくとも半年に1回の血液検査と甲状腺エコーを行い、転移や増悪がないかを確認する必要があったと日本人研究者が報告しています。本会でも特にハイリスクと思われる子どもに対するセカンドオピニオンや、甲状腺エコーと血液検査を受けられるよう活動を検討する予定です。

♥児童養護施設の子どもに対する被ばく量測定

青葉学園と福島愛育園では beyond X プロジェクトより寄贈されたポケット線量計を小舎毎や地域小規模施設(ホーム)に各1本配置し、大気中の放射線を測定して外部被曝量の目安としていました。しかし、ポケット線量計の数値は被曝量を直接証明するものではありません。また中学生・高校生は施設外で生活する事が多く、彼らの被曝量は正確には反映されません。そのために、職員と共に高校生女子には長瀬ランダウアのクイックセルパッチを装着してもらいました。ポケット線量計で測定する放射線量は、毎日小舎毎に職員に記録をお願いしています。子どもたちの居住する様々な場所の放射線量の傾向がつかめるため、ホットスポットを避けるなど、少しでも外部被ばくを避ける生活を計画する上でとても役立っています。

内部被曝の指標になる尿中セシウム検査は、尿中の微量なセシウムを測定できる検査です。尿検査には一人当たり2リットルの蓄尿が必要でしたが、検査にかかる費用を高額(2万円)にすると、500ccでもおむつでも測定できることがわかり、年少の子どもの検査も可能となりました。4月からの実施人数は2施設で職員30名、児童34名にのびります。職員には、澤田が個別に説明して、どのように生活改善をするとセシウム摂取が減らせるかを一緒に考えるカウンセリングをしています。子どもには、普段から

ケアにあたっている施設の看護師と澤田が説明をしています。

♥食品放射能測定器

食品・飲料の放射能を測定するための「食品放射能スクリーニングシステム」(食品の放射能測定器 以下ベクレル計)が、青葉学園にルーテル教団より無償貸与されたことをきっかけに、全施設で県から貸与されることになりました。施設で1日2食以上摂っている子どものいることから児童福祉施設でのベクレル計設置の必要性を県に訴えた結果です。

9月末に、県南部の白河、堀川愛生園に2度目の訪問をして19名の職員を対象とした勉強会を開催しました。ちょうどその日に県からベクレル計の設置希望について問い合わせがありました。前回訪問では毎食測定に対する負担感が聞かれましたが、食品放射能測定の必要性を学んだ後には、貸与を希望する決定をすることができました。折しも、園舎の耐震改築中のため、県の要求する来年3月までの活動実績を出せない可能性がありましたが、本会を通じて仮の設置場所(測定室)への寄付先を募り、貸与の希望を出すことができました。

♥今後の活動予定

本年10~12月に尿中セシウム再検査(対象:初回検査でセシウムが検出された福島愛育園、青葉学園の職員と児童)、青葉学園の児童の尿中セシウム検査しています。検査結果はこれまで同様に生活改善についてカウンセリングを行う予定です。10月には、青葉学園の敷地内空間線量の測定を株式会社サードウェブの協力を得て実施しました。その結果、洗濯物干し場が高線量である

ことが判明して、コンクリート敷きをすることで線量を低減させられることから、寄付先との調整を開始しました。

11月には、堀川愛生園でも尿中セシウム検査の実施を予定しています。また、2013年1月~2月には青葉学園、福島愛育園と協力して試作版「健康手帳(暫定版)」を作成し、2施設以外の希望する他の施設にも配付予定です。

♥ご協力をお願い申し上げます

事故後1年半以上経ちますが、避難生活の見通しが立たず、仮設住宅での生活が長期化するにしがって家庭内の問題が生じ、児童養護施設に措置される子どもが出てきました。児童養護施設の子どもの健康は、私達人間にゆだねられています。施設に入所している子ども達は、心身両面にわたる手厚いケアと暖かい養育が必要です。これらに加えて放射能に対する対策を講じるには、従来から不足しているといわれる職員のマンパワー(職員数は戦災孤児の養育を基準とした人数)ではとても対応しきれない状態です。さらにその対策も今後多岐に渡ることが予想され、長期的・継続的な支援を必要としています。現行法律下では児童養護施設に自己収入を得る方法はない上に、公的補償、除染補助等の助成やその内容は、十分とは言えません。お志ある皆様の格別のご協力をいただければ幸いです。



福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会
代表 澤田和美(元武蔵野大学看護学部 教授)
丸光恵(東京医科歯科大学国際看護開発学 教授)
副代表 塩飽仁(東北大学大学院 小児看護学 教授)

♥ 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会 ♥

私どもは2011年8月に青葉学園を訪問して行った聞き取り調査をきっかけに、福島県内の児童養護施設の子どもたち・先生方の窮状を知り、子どもたちの健康を守るあらゆる活動を推進するべく「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」を立ち上げました。JOCS 日本キリスト教海外医療協力会「みんなで生きる」8・9月号には食品測定器の測定室について掲載されています。また、AHI(アジア保健研修所)ニュースレター10月号に本会澤田が紹介されます。

HP 11月開設予定 <http://www.fukujidou.org>

本会へのお問合せ・ご支援は下記までお願い申し上げます。また未使用切手をございましたらお送りください。

認証NPO法人に認可日以降(2015年予定)の寄付が控除対象になります。ご了承ください。

♥事務所住所・連絡先 〒960-8055 福島市野田町6-4-74-5メゾンオーブC203

e-mail: fukujidou@yahoo.co.jp 電話:024-573-2939

♥ご支援先 ゆうちょ銀行 店名:二二九店(店番号 229) 当座預金 口座記号番号:02220-2-118684

口座名称:福島児童養護施設の子どもを考える会

大東銀行 店名:福島西支店(店番号 047) 普通預金 口座番号:1303901 口座名称:福児童 代表 澤田和美



考える会のマーク

♥ご寄付を頂きました。感謝申し上げます♥ (6月~9月 敬称略 順不同)

佐野 むね、河嶋 弥栄子、中田 豊一、津山 春香、立川 洪介・満里、横関 英達、横関 道子、石田 雅男、大野 満男、葛西 登喜子、愛泉会 ぶどうの会、澤田 稔・保子、宇野木 敦子、馬場 隆、立川 明朗、松平 信子、村上 瑛一、永田 政輝、遠藤 和子、西田 志穂、白井 美帆子(4回)、永田 耕治・栄子、坂巻 実(2回)、水野あつこ、石原 真木子、前島 忻治、高橋 明男、数間 恵子、戸谷 弘彦、加島 春来、中尾 秀子、高山 喜美子、上田 睦子、伊藤 寿浩・良子、西岡 和代(2回目)、鈴木 幹子、横澤 澄子、世界 アイ子、日進市 市民講座、日本キリスト教団 南山教会、山崎 真由美、伊藤 美世子、宇井 志緒利、沖 菜穂子、糸柳 尚子、田口 恵美子、島田 真理恵、John Görmann、大塚 純子、高橋 敦子、田中 とよ美、尾関 静枝、Narendra Kumar Biswas(AHI 元研修生)、光野 浩一、山元 由美子、木村 千春、近藤 真由美、村上 満子、舟橋よしえ・白井えり子、野田奈緒子、荒井 二郎

領収書の送付が遅れておりますことをお詫び申し上げます。